

事業評価シート（2022年度評価結果）

事業名	概要	総合評価	指標事項	改善に向けての取り組み
基本目標2 桜川市とのつながりを築き、新しいひとの流れをつくる				
221	滞在型観光開発事業	<ul style="list-style-type: none"> 長時間滞在してもらうための体験プログラム等の開発を支援する 民泊・農泊の開業を支援する 屋外型宿泊施設の活用について検討する 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> KPI（民泊・農泊の開業件数）に対して、事業実績はKPIとは直接関係のない「市内キャンプ場基本構想の策定」となっており、ズレがある。R2～4の開業実績はゼロだが、R5年度に1件開業あり(犬田地区「森と蔵」)との説明を受けた。支援策があれば開業も加速する可能性があるのではないかと考える。今後「上野沼やすらぎの里キャンプ場」の基本構想が策定されるが、他自治体ではコロナ禍において民間を含めた類似施設の整備が進んでいるため、後発のメリットを生かした独自性のある整備を期待する。 KPIの変更の必要性には異論はないものの、民泊農泊については自然豊かな環境や交通の利便性などの好条件を有することから、今後もニーズの動向などを注視願いたい。また、上野沼やすらぎの里キャンプ場の基本構想策定にあたっては、独自のコンセプトやターゲットの想定などを十分議論されたい。 滞在型アウトドア施設「森と蔵」をオープンさせ、施設への入居契約も行っており成果を挙げているものもある。現在1件の民泊・農泊の実施件数を増やす取組みの強化。上野沼やすらぎの里キャンプ場は、アクセスや立地環境は魅力なので構想の策定から早期の整備着工へと進めてほしい。 野外活動需要は高まっている。つくば高原は標高500mの野趣、上野沼は湖畔と異なる魅力がある。100万人会員のモンベル連携イベントの開催やSNS活用の予約等により利用を高めたい。筑波高原はアクセス改善が必要。機部や雨引、椎尾、真壁等歴史資産（真壁城跡は素晴らしい）も多くSNSの動画発信等PRを強化したい。台湾等からの外国人誘客、古民家カフェ&民泊、既存旅館等のリニューアル支援も重要。 民泊事業が低迷していることから抜本的な見直しが必要と思われる。例えば、上野沼キャンプ場が一定程度成果を上げているので、そこに特化した事業展開に集中していくなど、一点主義でもよいのではないかと。 	<p>筑波高原キャンプ場については、基本構想に基づき、登山者が必要とする最低限の設備展開を行い、筑波山の自然を楽しむための「登山基地」として登山客、施設利用者の増加を目指してまいります。</p> <p>上野沼やすらぎの里キャンプ場については、桜川筑西インターチェンジから近いといったアクセスや水辺と平地林といった立地環境が魅力ですので、それらを生かした基本構想を今年度中に策定し、来年度以降に基本計画、地形測量及び設計を実施し、再整備をすすめてまいります。</p> <p>両キャンプ場の誘客については、市HP、SNS、業界誌など多方面の媒体を活用したプロモーションを実施してまいります。</p> <p>民泊・農泊の開業支援については、今後も継続してまいります。指標については、両キャンプ場の再整備の進捗に合わせて変更することをご検討してまいります。</p>
222	広域連携幹線道路整備事業 「上曾トンネル（仮称）整備事業」	<ul style="list-style-type: none"> 上曾トンネル（仮称）及び取付道路を整備する 上曾トンネル（仮称）休憩所及び城址公園駐車場を整備する 上曾トンネル周辺地域活性化基本構想に基づいた周辺地域の整備、体験づくり 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> トンネル整備事業は、両側からの掘削作業が完了し、覆工や舗装、設備工事が順調に進められている。一方で、R7のトンネル開通に向けた周辺地域の活性化の検討は始まったばかりである。これまでは生活圏が別であった桜川市・石岡市が、トンネル開通後は、ビジネスや観光を含めた往来が増加する見通しであることから、今から住民主体の検討をしっかりと進めていただきたい。その際は、過去の歴史やしきたりにとらわれず、未来を見据えたビジョンを描くよう期待したい。 本事業の実施によりトンネル開通の見通しも立っており、開通後は交通量が大幅に増加することが見込まれている中で、上曾トンネル周辺地域活性化基本構想にもあるように、単なる通過交通だけにならないよう、真壁城跡や重伝建など地域の歴史的特性を活かした振興策を早期に検討すべきである。 ほぼ工期通り工事は進められており、開通時期に影響は今のところないとの報告。今後、近隣自治体との連携において商業、観光など幅広い分野においての利用促進策を構築していくことが重要だと考える。 完成予定に変更がなければ問題ない。取付道路とあわせてどう活用していくかが課題であり、歴史資源豊かな真壁地区の観光復興に役立てたい。猪旗竿を先頭に「県内最長トンネルを走ろう、歩こう3、5km」をオープニングイベントとし、真壁の古武道大会等で注目を集め、動画をSNSに流しイメージを高めたい。台湾の自転車メーカーの協力をもらい台湾サイクリストの参加も良いと思う。 県事業でもあるが、桜川市としても市民にわかりやすい事業効果を示すなど関心を高める取組を継続的に行ってはどうか。 	<p>令和7年度の開通に向け、開通式はもちろんのこと、開通前のウォーキング、サイクリングなどのイベントを引き続き検討してまいります。</p> <p>イベントの企画に関しては地域住民の方に積極的にご参加いただき、イベントを盛り上げていくとともに、桜川市・石岡市、両市の交流を図りたいと考えております。</p> <p>また、開通後も両市、さらには近隣自治体と連携し、商業・観光などの振興を図りたいと考えております。</p> <p>上曾トンネルの開通がきっかけに、住民にとっても来訪者にとっても魅力的な地域になるよう、様々な施策に取り組んで参ります。</p>
基本目標3 出産・子育ての希望をかなえる				
312	子どもの遊び場創生事業	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが安心して遊び、活動できる場づくりや子育て世代が安心して暮らすことのできる環境づくりを推進する 先導的施策として、大和駅北公園について子育てに配慮した施設整備・運営を実施する 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> R4年7月に一部供用開始したが、市民の意識（子育てしやすいまちだと思える市民割合：50.9%）は変化が見られなかった。場所柄、市民に十分認知されていないことも考えられるため、例えば市内の幼稚園・保育所と連携して児童向けイベントを実施したり、周辺が未整備であることからキッチンカーやフードワゴンを土日土日に誘致するなど、利用者を増やす工夫にも取り組んで欲しい。一方で、作るだけでなく、維持管理費を抑えるための効果的方策や、事故のない安全な運用管理にも配慮していただきたい。 今後、指定管理者の選定や管理棟等の設計に際して、施設の安全性を第一義に考慮した上で、利用者のニーズに即した利便性が図られるよう留意して進めていただきたい。 大和北公園についての整備は既に一部の施設の供用が開始されており、遊び場の創出に成果を出している。 山桜や石材等を活かした桜川市独自の景観デザインとなって欲しい。遊具も間伐材等を活用し、木製ブランコや木製アスレチック、クライミングの壁など自然を楽しむものであってほしい。山桜やアジサイ、蓮など折々に季節を楽しめる庭園であってほしい。 	<p>公園外周園路を利用したウォーキングイベントなどが数回開催されています。また、利用者アンケートを実施し、遊具広場内に年代別に安全に遊べるように配置した遊具を増設いたしました。一方、維持管理においては、現在2名の管理員にて、清掃や施設点検、除草作業などを行っております。また、未整備区域においては、自然を感じられる様な築山や芝生広場などを計画しておりますが、整備後の維持管理等を踏まえながらも、多くの方に親しまれ利用される公園整備を検討して参ります。</p>

評価基準

S：順調に行われており、成果が顕著である

A：概ね順調に行われている

B：成果を上げつつあるが、一部改善が必要

C：継続するためには見直しを要する。

D：休止・廃止の検討を要する（不要）